**優曇華 [UDONGE]**

**Version du 24/12/2012**

Voici pour ceux que ça intéresserait, une version du texte japonais de *Udonge*. Il contient de nombreux caractères anciens (certains existent aussi dans une graphie simplifiée).

### Les numéros correspondent approximativement aux paragraphes de la traduction de Yoko Orimo que vous trouvez sur le blog  <http://www.shobogenzo.eu>, blog sur lequel vous avez beaucoup d'autres merveilles !

 Christiane Marmèche

1.靈山百萬衆前、世尊拈優曇華瞬目。于時摩訶迦葉、破顔微笑。世尊云、我有正法眼藏涅槃妙心、附屬摩訶迦葉。

2.七佛諸佛はおなじく拈華來な**り**、これを向上の拈華と修證現成せるな**り**。直下の拈花と裂破開明せ**り**。しかあればすなはち、拈華裏の向上向下、自他表裡等、ともに渾華拈な**り**。華量佛量、心量身量な**り**。いく拈華も面面の嫡嫡な**り**。附屬有在な**り**。世尊拈華來、なほ放下著いまだし。拈華世尊來、ときに嗣世尊な**り**。拈花時すなはち盡時のゆゑに同參世尊な**り**、同拈華な**り**。

3.いはゆる拈花といふは、花拈華な**り**。梅華春花、雪花蓮華等な**り**。いはくの梅花の五葉は三百六十餘會な**り**、五千四十八卷な**り**、三乘十二分教なり、三賢十聖な**り**。これによ**り**て三賢十聖およばざるな**り**。大藏あ**り**、奇特あ**り**、これを華開世界起といふ。

4.一華開五葉、結果自然成とは、渾身是己掛渾身な**り**。桃花をみて眼睛を打失し、翠竹をきくに耳處を不現ならしむる、拈花の而今な**り**。腰雪斷臂、禮拜得髓する、花自開な**り**。石碓米白、夜半傳衣する、華已拈な**り**。これら世尊手裡の命根な**り**。

5.おほよそ拈華は世尊成道よ**り**已前にあ**り**、世尊成道と同時な**り**、世尊成道よ**り**ものちにあ**り**。これによ**り**て、華成道な**り**。拈華はるかにこれらの時節を超越せ**り**。諸佛諸祖の發心發足、修證保任、ともに拈華の春風を蝶舞するな**り**。

6.しかあれば、いま瞿曇世尊、はなのなかに身をいれ、空のなかに身をかくせるによ**り**て、鼻孔をとるべし、虛空をとれ**り**、拈華と稱ず。拈花は眼睛にて拈ず、心識にて拈ず、鼻孔にて拈ず、華拈にて拈ずるな**り**。おほよそこの山かは天地、日月風雨、人畜草木のいろいろ、角角拈來せる、すなはちこれ拈優曇花な**り**。生死去來も、はなのいろいろな**り**、はなの光明な**り**。いまわれらが、かくのごとく參學する、拈華來な**り**。

7.佛言、譬如優曇花、一切皆愛樂。いはくの一切は、現身藏身の佛祖な**り**、草木昆蟲の自有光明在な**り**。皆愛樂とは、面面の皮肉骨髓、いまし活**鱍鱍**地な**り**。しかあればすなはち、一切はみな優曇華な**り**。かるがゆゑに、すなはちこれをまれな**り**といふ。

8.瞬目とは、樹下に打坐して明星に眼睛を換却せしときな**り**。このとき摩訶迦葉、破顔微笑するなり。顔容はやく破して拈華顔に換却せ**り**。如來瞬目のときに、われらが眼睛はやく打失しきたれ**り**。この如來瞬目、すなはち拈華な**り**。優曇華のこころづからひらくるな**り**。拈花の正當恁麼時は、一切の瞿曇、一切の迦葉、一切の衆生、一切のわれら、ともに一隻の手をのべて、おなじく拈華すること、只今までもいまだやまざるな**り**。さらに手裡藏身三昧あるがゆゑに、四大五陰といふな**り**。

9.我有は附囑な**り**、附囑は我有な**り**。附囑はかならず我有に**罣**礙せらるるな**り**。我有は頂**寧**な**り**。その參學は、頂**寧**量を巴鼻して參學するな**り**。我有を拈じて附囑に換却するとき、保任正法眼藏な**り**。

10.祖師西來、これ拈花來な**り**。拈華を弄精魂といふ。弄精魂とは、祗管打坐、脫落身心な**り**。佛とな**り**祖となるを弄精魂といふ、著衣喫飯を弄精魂といふな**り**。おほよそ佛祖極則事、かならず弄精魂な**り**。佛殿に相見せられ、僧堂を相見する、はなにいろいろいよいよそなは**り**、いろにひか**り**ますますかさなるな**り**。さらに僧堂いま板をと**り**て雲中に拍し、佛殿いま笙をふくんで水底にふく。到恁麼のとき、あやま**り**て梅華引を吹起せ**り**。

11.いはゆる先師古佛いはく、
瞿曇打失眼睛時、
雪裡梅花只一枝。
而今到處成荊棘、
却笑春風繚亂吹。

12.いま如來の眼睛あやま**り**て梅花となれ**り**。

梅花いま彌綸せる荊棘をなせ**り**。如來は眼睛に藏身し、眼睛は梅花に藏身す、梅花は荊棘に藏身せ**り**。いまかへ**り**て春風をふく。しかもかくのごとくな**り**といへども、桃花樂を慶快す。

13.先師天童古佛云、靈雲見處桃花開、天童見處桃花落。

14.しるべし、桃花開は靈雲の見處な**り**、直至如今更不疑な**り**。桃花落は天童の見處な**り**。桃花のひらくるは春のかぜにもよほされ、桃花のおつるは春のかぜににくまる。たとひ春風ふかく桃花をにくむとも、桃花おちて身心脫落せん。

正法眼藏優曇華第六十四

爾時寬元二年甲辰二月十二日在越宇吉峰精藍示衆